

平成28年度 外国語活動にかかわる現状と課題

部長 東條 善夫

1 外国語活動の現状

(1) 外国語活動の教科化と中学年外国語活動導入に向けての準備と小中の接続・連携

大半の郡市外国語活動部で、高学年の教科化を見据えた取組や小中の接続や連携を視野に入れながらコミュニケーションへの積極性を高める授業づくりがなされている。中学校の英語授業を参観したり、中学校の英語教員が小学校に直接出向いて乗り入れ授業をしたりしている郡市が数多く見られる。教科としての英語学習を開始するに当たり、単元や授業のねらいを踏まえて、何をどのように教えるのか、どのように評価するのか。教科化されることによって、各中学校で作成した「CAN-DO リスト」の活用及び児童生徒の意欲を高めるため、中学校での指導はどのように進めていけばよいのか、具体的に示唆があり有効な取組となっている。

また、中学年での導入に向けて小中連携だけでなく小小連携の必要性を学ぶための動きも出始めている。さらに、教育センター及び推進委員会等の行政、公的機関の研修を小中合同で活用したり、大学の研究者や行政の指導主事等の外部講師を招聘してのセミナーを開催したりしている郡市も多いと言える。

(2) 授業改善や評価等の情報交換

小学校の学級担任（外国語活動担当教員）の外国語活動に対する意識を見ると「自信をもって指導しているか」という問いに対して「あまりそう思わない」と回答する教員の割合が依然として高いのも事実である。そのため、小教研外国語活動部の研修は、実践上の課題を解決していくためのヒントとなっている。具体的な教材づくりや蓄積された実践事例を情報交換することにより、授業へのハードルを低くし、見通しをもって取り組むことができている。また、「児童は、外国語活動で相手に自分の思いや願いが伝わる成功体験を経験することで、より一層積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や姿が見られた」ことが糸魚川市から実践報告されている。五泉市や三条市では、担任主導型の外国語活動の提案授業、加茂市や妙高市では「CAN-DO リスト」を活用した学習到達目標の設定と評価について、見附市では小学校での文字指導導入のためにフォニックスについて、魚沼市では時数確保のための研修を行うなど、具体的な授業場面を想定して評価の在り方や授業づくりについて検討している。

2 第67回全国英語教育研究大会新潟大会に向けて

平成29年11月22日（水）、23日（木・祝）に、新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」と朱鷺メッセで標記大会が初めて新潟県で開催される。この大会は、学校をはじめとする英語教育に携わる団体が、実践研究の発表や活発な意見・情報交換を通して日本の英語教育振興を図る目的で開催されるものであり、本県における英語教育の実践を全国に発信するまたとない機会となるであろう。初日は、名古屋外国語大学の太田光春教授による記念講演と小学校・中学校・高等学校がステージ上でそれぞれ授業実演を行う。2日目には校種別領域別の分科会で実践発表を行うことになる。

平成32年度の全面実施を踏まえ、移行措置を控えたタイミングで新潟大会が開催されることから、全国から多くの参加者が見込まれる。授業実演者や研究実践発表者も決定し、全県で支援体制の構築が望まれる。今年度は、既に、4回の実行委員会が開催され、平成29年度は当該年度であり、準備作業も佳境を迎えることから、各郡市小教研外国語活動部会員のさらなる研修活動の充実と指導力の向上が期待される。